

令和 7 年度第 1 回 川崎市農業振興計画推進委員会
次期農業振興計画策定部会議事録（摘録）

- 1 開催日時 令和 7 年 7 月 7 日（月） 1 0 時 0 0 分～ 1 2 時 0 0 分
- 2 開催場所 川崎市都市農業振興センター（高津区梶ヶ谷 2－1－7） 3 階会議室

3 出席者

【出席委員】

橋口委員、丸山委員、清水委員

【セレサ川崎農業協同組合】

都市農業振興課長（西野）

【川崎市】

都市農業振興センター所長（齋藤）、
農業振興課長（川口）、農地課長（久延）、農業技術支援センター所長（地引）、
農業振興課農政係長（辻）、農業振興課農政係（上岡）

4 議題（公開）

- （1）開会、配布資料確認、あいさつ等
- （2）報告 次期農業振興計画の基本的な考え方について
- （3）審議 次期農業振興計画における重点施策について
施策の内容・目標となる指標について
- （4）その他
- （5）閉会

5 傍聴者

なし

6 会議の内容（摘録）

（1）開会・あいさつ、交代委員の紹介、配布資料確認等

【川崎市：辻】

本日は、ご多用のところ、御参集いただきまして、誠にありがとうございます。

これより「令和 7 年度第 1 回川崎市農業振興計画推進委員会次期農業振興計画策定部会」を開催いたします。

次期農業振興計画策定部会は、次期計画に係る意見交換及び調査等を実施・検討し、計画素案を策定することを目的としており、令和５年度第２回及び令和６年度第１回川崎市農業振興計画推進委員会において、条例第８条に基づく部会として設置の承認並びに部会委員の指名が行われました。

なお、本部会でございますが、開催に際して委員の半数以上の出席を要することとされており、本日は３名中３名の委員にご出席いただいております、条例第７条第２項に基づき、本部会が開催要件を満たしていることを御報告いたします。

さて、お手元の資料の確認ですが、次第、席次以外の添付資料は、次第に一式を記載しております。不足しているものがありませんでしたら、事務局までお声かけください。

なお、この本部会は、「川崎市審議会等の会議の公開に関する条例」に基づきまして、会議の傍聴ならびに議事録による公開を原則としておりますので、御了承いただきますよう、お願い申し上げます。なお、本日は傍聴者の方はいらっしゃいません。

次に、本日の出席者を御紹介いたします。

今年度、初めての部会となりますので委員の方々におかれましては簡単にご挨拶を頂ければと存じます。

明治大学 農学部 食料環境政策学科 教授 橋口部会長でございます。

【橋口部会長】

皆様おはようございます。改めまして引き続きよろしくお願いいたします。今年度はいよいよ川崎市の次期農業振興計画の策定年度ということで緊張して会議等参加させていただきたいと思います。世間では私の記憶では３０年ぶりくらいにお米をめぐって、世の中で農業のことが注目されております。川崎は都市農業ということで感覚的には違いかもしれませんが、わずかながら水田もございますし、広い意味で農業に対する国民の関心が高まってきているかなと思います。そういう側面も肯定的な点で活かせるかなと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

【川崎市：辻】

ありがとうございます。続きまして、ten 株式会社 代表取締役 丸山委員でございます。

【丸山委員】

丸山です。よろしくお願いいたします。私は高津区で地元産の素材を使って飲食店やパン屋、お菓子屋の業態を営み、地元の農家さんと一緒に新しい価値を作ろうとやっております、今の農を取り巻く環境であったり、昨今の米の状況も強く結びつきがございます。そういった面を含めてお話できればと思いますので、よろしくお願いいたします。

【川崎市：辻】

ありがとうございます。続きまして、川崎・食と農のコミュニティ 代表 清水委員で
ございます。

【清水委員】

川崎・食と農のコミュニティという市民活動団体の代表をしております清水と申しま
す。どうぞよろしくお願いいたします。主に川崎・食と農のコミュニティでは年に一回か
わさきそだちを使った料理コンテストを JA さんの協賛もいただきながら開催しており
ます。ここ数年は高校生が非常におもしろい作品を出してくれております。もう一つ川崎
の伝統野菜ののらぼう菜を繋いでいく『のらぼうプロジェクト』を進めており、亡くなら
れた高橋孝次さんの技術を繋いでいく活動を行っております。また、宮前区に住んでいま
すが、宮前区の地域振興課と一緒に「農あるまちづくり部会」で区民に宮前区の財産であ
る農に関してどうやって区民の理解を深めていくかという活動もしております。いろん
なことにちょくちょく顔を出していますので、市民目線でかかわらせていただければと
思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【川崎市：辻】

他の出席者の紹介。

(2) 報告 次期農業振興計画の基本的な考え方について

【川崎市：辻】

それでは議題を進めさせていただきます。

次第の2以降の議題については、部会長に議長を務めていただき、議事進行をお願いし
たく存じます。

それでは、橋口部会長、宜しく願いいたします。

【橋口部会長】

それでは改めてお願いします。

次第の2に報告がございますので、こちらにつきまして事務局から説明をお願いしま
す。

【川崎市：辻】

資料1に沿って説明。

【橋口部会長】

ご説明ありがとうございます。

資料1についてはこれまで昨年度中にご提示いただいた部分に補強された部分を中心

に御説明いただきましたが、御質問等ございましたら委員の皆様からお願いしたいと思います。

【橋口部会長】

まず私から6ページの赤枠で囲われた部分に関してです。農家さんが「地域の担い手として」と記載がありますが、私もこのあたりを強く感じております。川崎は特に若い方を中心に人口の流動が激しい都市でございますが、農家さんは古くからその土地にいらっしゃる方が多いということで、歴史的にも地域をずっと見続けている方が多いです。市民の方は比較的東京方面に通われている方が多いと思いますが、果樹や野菜などオープン空間で農業をやられている方は、地域の動きをずっとウォッチされていて、地域の担い手として様々な役割を担っていただいているという方も多いと思います。

また、農地という観点で考えると昨今こんなに暑くなっております。万が一農地がすべてアスファルトになるとまた大変なことになるのかなと思います。

話が脱線するようですが、市内の農家さんの水は独自に水道水や地下水を確保されているので、雨が降らなくても大丈夫なのですかね？

【JA：西野課長】

一部農業振興地域の奥の方には届いていないところもあるかなと思いますけど、生産緑地は基本的に水道水です。農業振興地域は井戸水をポンプアップする感じになりますけど、それでも届ききらないところもあるかなと思います。

【清水委員】

農家さんが地域の担い手としてと補強された点は良いと思います。農地は本市における希少な自然環境の一つとしてとらえ、ネイチャーポジティブにも通ずると記載がございます。去年の緑化フェアの流れで、農地ではなく、森等の緑環境に関する部署が建設緑政局にできたみたいですね。その辺りに関わっていた方が、野菜を出荷するには至らないけれど、野菜を作っていたりする方がいるみたいです。農地では無いけれども、森の中で野菜を作っている方がいるようです。先月取材したのが、久延課長もご存じかと思いますが、稲田堤の福祉施設の花壇に市民が枝豆等の夏野菜を植えています。収穫量はそんなに大したことはないですが、野菜作りに親しむという意向が増えていて、中心となって活動している方に聞いたところ、シェア畑をやって、そこでノウハウを身に着けているみたいで、農家さんではなく、企業勤めの方でした。リタイアした後に地域にデビューしようと思った時にシェア畑を借りて3年くらいでノウハウを学んだようです。

幸区民館の前の花壇に春はじゃがいもを植えて、収穫といったこともやっています。そこも農地ではないが、地域の人と野菜作りを行うという、今までなかった活動があちこちで出ています。いきなり農地を借りてというのはハードルが上がるので、じゃあ花壇で作

ろうといったようなところに注目しています。

昨年も大根の収穫の時に幸市民館に行った際にすごく盛り上がっていて、100 円払って大根を抜くという感じでした。図書館に本を返しに来た人が、帰りに寄ってくといった感じでした。市民が農とつながる入口づくりになっているのかなと感じました。こういった視点も入れながら計画作りをしていくのもいいのかなと思いました。

【橋口部会長】

今の御発言に対して、川崎市からコメントございますか。

【川崎市：川口課長】

今、農地の減少は止められてはいなくて、いかに緩やかにするかということが次の計画の中心となってくるかと思います。そういった農地ではないところでの野菜の栽培は今後も検討していく必要があるのかなと思います。農『業』という括りではなくなってしまうが、建設緑政局等の関連部署と話しをしているところです。経済労働局だけで考えているとどうしても農『業』ではないので、うちの所管ではないということになってしまいます。庁内全体として、市民が野菜栽培に親しんでいける場所を作り出すということは検討しています。ただ、そういったことを計画に書くかは明確になっていません。

【丸山委員】

今の話は市民農園やシェア畑のように売るための野菜栽培ではないですよね。そういう領域は農家さんのための施策ではないため、行政の中では縦割りにになってしまうのですか？市民農園は別の部署ですよね？

【川口課長】

どうしても今のところ縦割りになってしまいます。市民農園に関しては、農地の保全ということで、都市農業振興センターで所管しています。花壇での野菜栽培等はうちでは把握しきれていないです。

【丸山委員】

緑化フェア等で富士見公園の農と自然のガーデンみたいなことのために公共空間や公園を活用しようという新しい動きがあったが、あれは建設緑政局の所管ですか？

【川口課長】

建設緑政局もしくは川崎区のどちらかだと思います。

【清水委員】

農と自然のガーデンも緑化フェアが終わって全て無くなったけれど、スペースはあってトマト、キュウリ、ナス等を学校の畑的な感じに生まれ変わっていて、その野菜をフロンターレのファン感謝デーで売っていたみたいです。農と自然のガーデンは手ごたえがありました。のらぼう菜の収穫体験もやらせていただきました。割と川崎区の子供たちが来てくれて、親子で楽しんでいただきました。参加費 100 円くらいはいただきましたが、次はいつやるのか、みたいなことも聞かれたりしました。

【丸山委員】

今回の農業計画ではそういったものの位置づけとしては、入らないこともないけど、メインではないという感じですかね？

【川崎市：川口課長】

そうですね。

【清水委員】

市民の感覚としてはそういう人が増えているし、盛り上がっています。

【丸山委員】

昨日も生活クラブの知り合いでトウモロコシの収穫のお手伝いに行った方がいて、もいだトウモロコシを 1000 円で買っていました。農家さんの売り上げには繋がったみたいなんです。トータルで 100 人ほどいったそうです。そういう意味でいくと農家さんの今後の方向としては市民とそういうイベントを企画することは有効かなと思いました。

【橋口部会長】

そういった経験を蓄積していったりとか、定年のタイミングとか仕事のポジションのタイミングでは新規参入みたいな方が生まれる可能性もあります。こういったところから裾野が広がる可能性がありますね。

【橋口部会長】

他に意見等はよろしいでしょうか？

それでは議題をすすめます。

次第の 3 審議に入ります。資料 2 の『次期農業振興計画における重点施策について』、資料 3 の『施策の内容・目標となる指標』についてまとめて事務局から説明をお願いします。

【川崎市：辻、上岡】

資料 2、3 に沿って説明。

（３）審議 次期農業振興計画における重点施策について及び施策の内容・目標となる指標について

【橋口部会長】

説明ありがとうございました。次期農業振興計画における重点施策について及び施策の内容・目標となる指標について御説明いただきましたが、これから審議ということで色々御意見いただければと思います。今の説明に対する質問だけでも結構ですし、質問に併せて御意見いただくのでも結構ですので、よろしくお願いします。

【丸山委員】

重点施策を二つに絞られて、目標も明確で、基本的には良い計画かなと思っております。その中で一つ質問なのですが、農業経営を支える体制の強化・拡充についてで、目標が新規の認定農業者を増やしていくこととなっています。現状 A 新規参入者、B その他の販売農家の農業収入が 50～300 万の方が 70%と多く、C 中間層が 20%で 300～500 万で、D が今回のターゲットの認定農業者が 10%ということになっていて、さらにその先にトップ経営体があるという流れの中で、質問としては、目標がこれだとした時に具体的にターゲットとしてはどの層にアプローチをして、結果的に認定農業者を増やそうと思っているのですか？

【川崎市：川口課長】

基本的には中間層の方々を認定農業者に引き上げるという考え方でいます。勿論、B の方が認定農業者になっていただければ万々歳ですが、基本的には C の方がなりやすいと考えております。

【丸山委員】

段階的なステップはあると思いますが、70%を占める B の方々は C に行く可能性はあるのですか？

【川崎市：川口課長】

無くはないと思いますが、恐らく B は現状維持傾向が強い方が多いと思われます。

【丸山委員】

逆に A の方は意欲が高くて飛び越えて、やり方によっては C や D に行ける可能性もある

と思いますので、ターゲットをどこにして、どうアプローチするのが重要なのかなと思います。もしかしたら、Bを2分とか3分していくとBの中で可能性がある人はCに引き上げる施策というののもあっていいかもしれません。そういった具合に段階やターゲットに応じた施策もあっていいのではないかと思います。また、AをいかにスピーディーにDにするかみたいなのもやり方次第ではあり得るのではないかと思います。そこを一番の施策に持ってくるというのも個人的には良いかなと思います。

【川崎市：川口課長】

ありがとうございます。Aについても力を入れる心づもりでいて、Aの方がDに行くのも近道だと思っていますが、今のところ新規参入者にご紹介できるような良い農地があまりないということが現状ネックとなっています。そこでもう一つの施策で農地の貸借を奨励することもやっていきます。4年間で重点的にやっていって、どんどん変えていく必要があるかなと思います。新しくやっていく内容ですので、柔軟にやっていきたいと思っています。

【丸山委員】

12年間の中の3分の1フェーズということですね？

【川崎市：川口課長】

その通りです。丸山委員のご意見もごもっともで、柔軟に対応していきたいと思っています。

【丸山委員】

そういう意味だと、2番の重点施策についてもお聞きしたかったのが、これを誰のために促進していこうかという意味ではこの施策はAの方のためにということなののでしょうか？逆に言うとB以降の方のためでもあるのでしょうか？

【川崎市：川口課長】

そうですね。農地を管理しきれない方もいるとわかっていますので、その方々が貸しやすいようにしたいと考えております。先祖代々管理してきた農地を他人に貸してしまってもいいのかと思ってる方もいらっしゃるのではないかと思います。そういった方に市として貸してくださいとお願いすることで貸しやすくなるのではないかと考えております。

【丸山委員】

Aの新規の方が借りやすくなるし、今やっている方も追加で借りやすくなるということになりますか？

【川崎市：川口課長】

そうです。

【丸山委員】

狙いとしてはどちらの比率の方が高くなるのですか？

【川崎市：川口課長】

基本的には認定農業者や拡大意欲のある方へ貸しやすくしたいと考えております。もう一つは農地のない新規参入の方。この2つがメインになります。

【丸山委員】

続けて質問します。Aの新規参入者が1～5年目、認定新規就農者、その他の新規参入者ということであると、一つは農業経験のない若手で今から農業をやっていききたいという方とそれ以外の新規参入者はあり得るのですか？

【川崎市：川口課長】

認定新規就農者がそこまで若手ではなく、49歳以下が一般的に認定新規農業者となります。大体40代くらいが認定新規をとりたいという方が多いです。その他の新規参入者は認定農業者をとるほどではないが、農業をやりたいという方になりますが、川崎市ではそんなに多くないです。50歳くらいの方でお金も資産も割と持っている方が、次の自分の人生を考えた時にちょっと農業をやって稼ぎたいという方が現実的には多いです。

【清水委員】

そういった方は川崎市に在住されているのですか？

【川崎市：川口課長】

市外の方が多い傾向がございます。

【丸山委員】

Aの方は個人が多いのですか？

【川崎市：川口課長】

今のところ個人の方が多いです。別に法人も問題ないのですが。

【丸山委員】

よく企業が農業に参入するのを阻むみたいな話があったりしますが、どうなのでしょう

か？

【川崎市：川口課長】

これまではありましたが、今はありません。

【川崎市：久延課長】

農地を取得しなければ、比較的始めやすくなっています。取得するには農業の収入がいくら以上とか、公開株式が不可とかそういうのがあったりします。

【丸山委員】

では、農地取得は未だにハードルが高いのですね。

【川崎市：川口課長】

農地の貸借による新規参入ならしやすと思います。

【丸山委員】

この2番の施策も貸すということですよ？

【川崎市：川口課長】

そうですね。貸すハードルを下げるイメージです。

【丸山委員】

もう一つありえるかなと思っているのは、いかに代々続いた個人の農家さんではなく、新しく農業をやっていこうということであると経営感覚が持っている方の参入が大切で、経営感覚を持っている個人でもいいですが、できれば、小規模でも中規模でも事業体があるような別業種の方々が農に親和性を感じたり、農を良くしたいという思いで、参入しやすくなるといいのではないかと思います。農地を買うことは難しくても、連携して借りながら農業経営をやっていくことは可能であればそこを盛り上げるのはどうかということなのですが、その辺りはいかがですか？

【川崎市：川口課長】

勿論、含めて考えて問題ございません。

【丸山委員】

それも含めて A という感じなのであれば、A の考え方が重要なのかなと思いますし、A を増やすことが今後の川崎の農の未来には繋がっていくと思います。あるいはマッチング

というか、作る専門の農家さんと経営ってまるで違った役割になるので、経営ができる人と作るのが得意な人がしっかりタッグを組むこともありかと思います。ほかの業界でも割とこれは多くて、エンジニアさんとかくっついてすごい創造をするというの也有ります。そういう感覚になっていかないと支援だけしてどうにか頑張ってねという風になっても、そもそもそういった性質のない人の経営支援をしていても限界があるのかなと思います。経営ができる人と作る人を両方揃えて、いかに一緒に事業を考えていくのかというのを数年かけてやっていくことで体制を作っていこうみたいな計画があるといいんじゃないかなと思います。

【川崎市：川口課長】

前々から丸山委員からはそういった御意見をいただいております、その通りだと思います。最初から新規参入の事業体を入れるとなると地域の方からあまりよく思われないところもあります。少しずつ変えていけていければいいかなと思いますので、視野には入れたいです。

【J A：西野課長】

なんでもかんでも良しとするというよりは、例えばそれまでの活動とか、これからどうしたいかをフィルターにかければいいのかと思います。なんでも OK にしてしまうとこれだけ沢山の企業があると良くないところが参入してしまうかもしれないですね。

【丸山委員】

モデル事業というか実証実験的なことを2年間くらいやってみて、農家側と経営側をピックアップしてしっかり理解してもらった上で、やってみるといいかもしれません。

【清水委員】

都市農業って全国からみたら規模が小さいわけじゃないですか。逆にそれを活かすことが重要かと思います。宮前区ではトマトを色んな種類作って、自分でトマトの色々な栄養を調べてそれを掲示したりしている方もいます。例えば、作物をある程度絞って、食べるころまでを繋げて、売り先も考えたようなパッケージプランとともに農地を貸し出すみたいなことも一つできるんじゃないかなと思います。川崎は東京にも近いし、横浜にも近い利便性の高いところにあり、野菜を食べてくれる方もたくさんいます。メリットを活かす施策が必要なのかなと思います。それを考えるには経営感覚のある民間の方のお力添えが必要かと思います。どういう専門家を入れるのか質問しようと思っていたところです。研究ではなく、経営感覚のある方のサポートが必要です。この前会計士の方とご縁があった際に農作物は原価計算が難しいという話をしたら、必ずしもそうではないみたいな話をしました。そういった専門家の力を借りていくのもいいかなと思います。栽培ではなく経営で成功している方の視点が必要かと思います。

【川崎市：川口課長】

基本的に今考えているのは中小企業診断士等の経営面がよく分かっていて農業のことをよく分かっている方を想定しています。丸山様や清水様がおっしゃったような専門家もいらっしゃるのかもしれませんが。調べていきたいと思います。

【丸山委員】

②の重点施策と併せて、川崎市で農地を借り上げて、借り上げたところで実証実験をして、Aの何パターンかに分かれた新規参入者と企業として携わりたい方や今の農家さんで作るのは得意だけど、経営は疎い方等でプロジェクトチームを作って成功に向けて事例を作っていく。そういう大きい施策をしないといいのかなと思います。

【橋口部会長】

ありがとうございます。

私から一つ質問がございます。重点施策と数値的な目標と支援策に伴う財政措置をセットで説明いただきましたが、専門家派遣、農地貸借の奨励金等はこれまで全くなかったのですか？

【川崎市：川口課長】

専門家派遣は認定農業者に限ってありました。奨励金はありません。

【橋口部会長】

そうすると今回の専門家の派遣は必ずしも、現認定農業者に限らないのでしょうか？

【川崎市：川口課長】

そうです。

【橋口部会長】

おそらく市の中にも財政措置に伴う数値目標があって、具体的な内容があってようやく市の中で予算措置があるのだと思います。そういった流れがあって特に2つの重点施策に絞ったと類推しましたが、そういうことでよろしいのでしょうか？

【川崎市：川口課長】

そうです。絞った方が効果を検証しやすいと考えています。

【橋口部会長】

あとは、補足的な意見ですが、規模拡大の意向がアンケートに出ています。これを絶対的な数値として重視すべきかというのはありますが、規模拡大と農業収入の増加をイコールとするのは若干齟齬があると思いますので、うまく販売がいくと経営状況も改善し、収入も上がるし、作った農産物が全て売れるとロスがなくなるというのもあったりすると思いますし、いままで売れなかったものが売れるというようなこと等が組み合わさって、収入が上がるということもあるでしょうし。一方で規模拡大を希望する方を農地貸借の推奨で支援するといったのかなと思います。

ただ、p17の「農業経営を支える基盤とは何か」に記載の販売、経営財務、労務の3つ全てを担える専門家はなかなかいらっしゃらないかと思いますので、そこは役割分担をしていただいて、例えば流通に詳しい丸山様のような専門家の方にうまくマッチングで対応していただいて、そういうのを含めて専門家支援と捉えていただければと思います。これは具体的には個々の資格をお持ちの方に契約する感じなのでしょうか？それとも単発で要請していくという感じなのでしょうか？

【川崎市：川口課長】

一括して、専門家をたくさん抱えているところと契約することが事務としてはやりやすいと考えております。

【橋口部会長】

核となるところはそのような形で良いと思いますが、要所要所でスポット的な専門家を要請してもいいと思います。

【川崎市：川口課長】

そのようにできると効果的だと思います。

【橋口部会長】

様々な意見を賜りましたが、ほかに御意見はありますか？

【JA：西野課長】

意見と質問がございます。

2つ目の農地マッチングの方ですが、これは耕作できていない農地を炙り出すという点では良いと思います。借りる側のメリットもこの施策の中でやるのかそれとも他の補助金で貸借して規模拡大をした人には補助率を上げるみたいなそういった借りる側の施策もできたら考えていただきたいなと思います。

もう一つは貸借の関係で普段私たちとやりとりしている農家さんにこれを伝えても中々

動きがないと思います。土地持ち非農家がよくされているのですが、市内の農家さんはそういった方が多くいらっしゃると思います。我々がリーチの届く農家さんというのは借り手側であって、出し手側ではありません。出し手側にどれだけ情報を伝えるかが重要かと思います。その辺り情報の伝え方を工夫に関してなにか考えていますか？

【川崎市：川口課長】

現時点では具体的に考えておりません。JA さんに御協力いただいて一緒にやっていこうと考えております。

【JA：西野課長】

うちのネットワークをうまく使ってもらいたいと考えております。私は金融の外回りの営業をやっていましたが、パンフレットを配ったりしておりました。何か配るアイテムがあれば、川崎市が農地の貸借奨励を始めたということを伝えることがきますし、営農関係の職員でなくても営業先で気軽に渡せるようになります。

【川崎市：辻係長】

アイテムとはチラシ的なものでしょうか？

【JA：西野課長】

そうです。

【橋口部会長】

セレサさんは准組合員が 9 割なのでしょうか？

【JA：西野課長】

正組合員が 5,000 人で准組合員が 6 万人になります。

【橋口部会長】

純粋に全く農地を持っていない准組合員も勿論いらっしゃると思いますが。

【JA：西野課長】

准組合員は所謂市民の方です。私が言いたいのは 5,000 人いる正組合員の方です。セレサモスの出荷者は 500 人で、残りの 4,500 人は農地を持っているけど、農業をやっていないとか、自家消費になっている方です。その 4,500 にいかに情報を伝えるかが重要かと思います。

【丸山委員】

資料の最初の方で今は 500 軒位しか販売農家がないという記載がありましたが、JA セレサ川崎の正組合員が 5,000 人いるものの、そのうちのほとんどは農地を持っているけれど、農家をやっていないのですか？

【JA：西野課長】

正組合員になった当時は農地を持っていた方もいらっしゃると思います。相続の時に売却して相続税を払って、どんどん農地が減っていった方もいらっしゃると思います。自宅周りにちょっとした畑はあるけど、売るほどはやっていないという方もいらっしゃいます。そういう組合員に情報を渡して、炙り出すということが重要かと思います。どうしても我々が普段やりとりする方は農業の収入もあって働いている方が多いです。そうじゃない方にこの情報を伝えるためになにか工夫は必要かと思います。

【川崎市：辻係長】

現在、その 4,500 人の方も含めて、定期的な情報発信とかはあるのですか？

【JA：西野課長】

一応、毎月支部回覧という形で回覧板的なものを回したりしています。では、そこに入れると皆が見てくれるかということと必ずしもそうではありません。埋もれてしまうものもあります。あとはうちの機関誌が月に 1 回全組合員には配布されるので、その機関誌に掲載するというのも一つやり方としてはありかと思います。機関誌はデジタルでも残ります。

【橋口部会長】

こちらについては周知の方法を検討するということで。

【川崎市：辻係長】

予算に組み込まないといけませんね。

【橋口部会長】

担い手への支援策は色々ありますよね？

【川崎市：川口課長】

はい。今までのものも継続しつつ、プラスアルファというイメージです。

【橋口部会長】

ほかに御意見はございますでしょうか？

【丸山委員】

今までと全然違う角度ですが、最新のテクノロジーとかそういった技術を農業で反映させるというのも遅かれ早かれ必要なのではないかと思います。その辺りは計画の中ではどういう位置づけになるのでしょうか？今はこういうこともやっているし、今後はこういうことをやりたい的なことはあるのでしょうか？

【川崎市：地引所長】

計画の中では中間層を引き上げて農業収入を拡大する取組を力を入れてやっていく方向ですが、農業技術支援センターでも農業収入を上げるという側面から取り組んでいることがございます。今は市内の事業者さんが作った炭のような資材を投入してどれだけ効果があるかをやっていたりします。今後新しい農業振興計画の策定作業も進んでいるなかで、農業技術支援センターの機能についても見直しを図っていますので、ソフト的な連携も力を入れてやっていかなければと思います。

【丸山委員】

この計画に何か載せていきたいものはありますか？

【地引所長】

計画の中で農業技術支援センターの機能更新を盛り込む予定です。庁内でも検討しているところなのですが、ハード整備の部分も少し入れていきたいです。

【丸山委員】

普通に考えると高齢化だったり、担い手不足だったりどんどん人は減っていくのは間違いないと思うので、省人化や生産の効率化とか色々やっていくべきだと思います。テクノロジーとかロボティクスの話になると大規模農業のイメージがあって、都市農業は向いていないんじゃないかと思われそうですが、そんなこともないんじゃないかなと思います。どの分野を選ぶか次第で、都市農業に向いている新規技術の導入というのは常に考えていく必要があります。今ここで悩んでいることがひっくり返るくらいのことは起きるのかなと思います。並行して一つ大きいテーマとして12年の計画には確実に入れていかないと、と思いました。

【川崎市：斎藤所長】

おっしゃるとおり小さいなら小さいなりの技術革新のやり方があると思います。環境配慮や省人化等があります。農業技術支援センターも現在ルンバみたいなもので草刈りを行い、実験しているわけです。川崎ならではの技術革新を農業技術支援センターでトライする

必要があります。

【川崎市：地引所長】

川崎の農業形態からいうと施設園芸における環境整備とか果樹栽培における省力化が重要になってくると思います。スマート農業は色々技術はありますが経営形態や規模にあったものを考えると先ほど申し上げた技術になると思います。そういったところの技術を見極めながら連携可能なところは連携していきたいと思います。

【川崎市：川口課長】

資料に漏れがありましたが、この農業技術支援についてのページを「次期計画における基本的な考え方」でお示しする予定です。

【橋口部会長】

一応今も栽培技術の普及向上という項目は入っていますので、このあたりに農業技術支援センターの部分もわかるように組み込めればより理解しやすくなると思います。

【丸山委員】

栽培に限らないかなと思います。

【橋口部会長】

栽培技術だといかに収量をあげるか、いいものを作るかになってしまいますね。栽培技術ですと捉えられ方が狭くなってしまいますので、もう少しそこも幅広く捉えられるといいなと思います。さっきの草刈りの話とかは栽培技術に入るかどうか難しいところですが、一般的には栽培技術と理解されないかもしれないですね。

【川崎市：地引所長】

省力化です。経営資源を振り分けも、厳密な意味では栽培じゃないかもしれないですね。

【橋口部会長】

ほかに御意見いかがでしょうか？

この後はなにか新しいことがでてくるのでしょうか？今日出たものでほぼ出揃っているのでしょうか？

【川崎市：川口課長】

ほぼ出揃っています。

【橋口部会長】

進め方の関係でいうと親委員会の川崎市農業振興計画推進委員会が7/28にあってそれを受けて2回目を9月上旬ごろに策定部会で報告という感じになるのでしょうか？

【川崎市：川口課長】

秋には計画の公表を予定しており、今後は計画の案を作っていく段階になりますので、案の御確認をお伺いしたいと思います。

【橋口部会長】

そうすると新規にこの策定部会に出すものは出揃った感じでしょうか？

【川崎市：川口課長】

骨子みたいなところは出揃いました。

【川崎市：斎藤所長】

あとは枝葉のところです。8月に総務委員会に報告いたしますので、その後に枝葉の部分を固めていくイメージです。

【橋口部会長】

まだもう少し意見を言う機会はあるそうですね。そのような進め方の前提のもと更に御意見ございますでしょうか。特になければ重点施策と目標となる施策に関して合意をいただく形になりますがよろしいでしょうか？

それでは審議事項に関して合意とさせていただきます。

当初予定されていた時間はもう少しございますので、なにか参加者の皆様からご意見や補足等ございましたら、よろしくお願いいたします。

【川崎市：地引所長】

最後の方に御説明いただきました農業技術支援センターの機能更新ということですが、今年度は庁内の方向性を決めることになっておりますので、庁内で施設のあり方を検討しまして、次年度以降少しずつ表に出していくことを考えています。今後様々な機会でご意見を頂戴するかなと思いますが、よろしくお願いします。

【橋口部会長】

農業技術支援センターは建物の更新が迫っているのでしょうか？

【川崎市：地引所長】

そうですね。昭和 47 年にオープンしたので、50 年以上経過しておりまして、建物自体が老朽化しております。どこかのタイミングで建物自体を更新しなければならないです。ただ、今回の農業振興計画を見直すにあたってはいい機会というのもありまして、庁内的にも農業振興計画のあり方を検討していくということになっています。

【橋口部会長】

植栽自体は更新してきたのですか？

【川崎市：地引所長】

梨は 20,000 m²の敷地に対して 5,000 m²まで植わっていたのですが、だいぶ老朽化してきていて、生産能力が落ちたものは伐採しております。

【橋口部会長】

名前は継続されるのですか？

【川崎市：地引所長】

名前に関しては、基本的に継続していきます。平成 20 年度にフルーツパークから農業技術支援センターに名称が変更されたのもありまして、今回の機能更新ではそこまでは考えておりません。

【橋口部会長】

県の施設がだいぶ新しいコンセプトでオープンしたということもありましたよね？1 回だけ見学に行きました。

【川崎市：地引所長】

平塚の花菜ガーデンですかね。昔は県の試験場でした。対市民向けの公園のような形になったかと思います。

【橋口部会長】

確かそこだったかと思います。

【川崎市：地引所長】

JA さんの直売所の隣ですよ。

【JA：西野課長】

そうでしたね。

【橋口部会長】

食事と買い物ができる場所ですね。

【川崎市：地引所長】

ちょっとそこまでの改修は考えておりませんが、既存の施設を活かしながらあまり大きな造成や開発は考えておりません。今ある施設を活かしながら、ソフト的な運営の仕方を考えております。直営ではなく、多様な主体と連携を考えております。

【橋口部会長】

市民が触れ合ったり体験したりする施設というのはさきほど話に出たはぐくみですかね。

【清水委員】

緑化フェアが終わってから、変わってしまいましたけれども、スペースは確保されています。

余談ですが、先週中学校給食の関係で、ニュートンタン風スープをいただきました。かわさきそだちが月に1回くらい給食に出るようになって取扱量も増えているのではないかと思います。川崎は今も子どもが増えています。全国からみても膨大な学校給食となっております。JAさんにすごく頑張ってもらっています。安定して供給されています。東京都は給食専門の農場を持っていて、やっています。そういうことを計画に入れていけないのかなと思います。

【川崎市：川口課長】

触れる方向です。

【清水委員】

この前農家さんと給食センターと一緒に見学に行きまして驚きました。ニュートンタンスープも一回に1,300食を作っていて、それでそのクオリティということで素晴らしいです。かわさきそだちの玉ねぎや香辛子を使っていて、技術も整って、食べる子どもたちもいるというこれは川崎の取組といえると思います。

【JA：西野課長】

香辛子は給食の加工向けでやらないと個人で直売所で販売してもなかなか売れないと思います。加工していただけるのはありがたかったです。

【清水委員】

昨年も梨をピューレにしてゼリーにして給食に出たと聞いています。今年も12月にやるそうですね。継続していくということで給食推進室もずいぶん柔軟になったと思います。PRをしようという動きもでてきていて、農業に関心を持っていただけるチャンスだと思っています。給食に出荷している農家さんも安定して出せて、必ず買ってもらえてありがたいという声も聞きます。

【川崎市：川口課長】

別件ですが、基本目標に仮で『豊かな暮らしを次世代へ』とさせていただいて、昨年度丸山委員から本当はもっと緊迫感のあるようなフレーズも入れてもいいんじゃないという話もあったかと思います。私ももう少し緊張感を出した方がいいなと思いながら、どうすればいいか悩んでいるところでございまして、緊張感あるバージョンもあるといいのだろうなと思っています。緊張感を付加するにはどうすればいいかなと考えておりまして、なにか御意見ありましたらいただきたく思います。

【橋口部会長】

技術的にはサブタイトルを入れるのもありかと思います。

【丸山委員】

緊張感もそうですし、よくありそうなものと忘れてしまいそうですよね。

【川崎市：川口課長】

そうですね。悩んでいるところです。

【丸山委員】

ちょっと意思を感じるくらいを目指す感じですかね。

【川崎市：川口課長】

そうですね。

【橋口部会長】

これはいつまでに決定するものなのですか？

【川崎市：川口課長】

8/22の総務委員会です。

事前に市長に確認に入りたいと考えております。

【丸山委員】

既存の農家さんからどう見えるかを考えなければならないですね。そうするとどうしても今のような形になってしまいますね。そこを考えなければいくらかでも選択しはあると思います。『川崎らしい新しい農業を作る』とかありますが、角が立ちますかね。

【川崎市：川口課長】

そうかもしれません。

【JA：西野課長】

今はそこまで尖った農家さんはいらっしやらないと思います。

逆にこういう形で議論させてもらっていて、市民の方々や他の産業と関わるのが川崎らしさなのかなと思います。そういったキーワードを落とすと変わるかもしれないですね。

【橋口部会長】

確かにこれだと日本どこでも大丈夫な感じですよ。

【JA：西野課長】

かわさきらしさって関わりとかつながるとか多様性とかそういうところにありますか。

【清水委員】

いろいろって未来じゃないけれど、そういうキャッチフレーズですね。

実際に農地と農家が減っているという危機感みたいなことをうまく表現できるような言葉があるといいのですが。

【橋口部会長】

これは内部では数十個くらい考えてここに至っている感じなのですかね？

【川崎市：斎藤所長】

十数個出して、最大公約数のものにしました。元々豊かなという言葉はありませんでした。都市部なので、農があることが大事という流れになって、もう少しソフトになって豊かなという感じになりました。

【丸山委員】

農の持続とか存続っていうところが必要なのかなと思います。農のオープン化とかイノベティブなワードがあってもいいかなと思います。

【橋口部会長】

市制 100 周年のキャッチフレーズはなにかあるんですって？

川崎市全体の今後の方向性なんかを表した言葉があると比較的合意も取りやすいしかと思います。川崎は色々なキャッチフレーズがあると思います。音楽の街の川崎とか個別に色々あると思います。

【清水委員】

『Colors, Future! いろいろって、未来』っていうこともありますしね。様々なことを受け入れる土壌があると思います。

【橋口部会長】

これは親委員会にも提起するのでしょうか？

【川崎市：斎藤所長】

そうです。逆に言うと今すぐでなくても思いついたものがあれば色々言っていいただければと思います。

【橋口部会長】

では、それについては色々と考えていただきまして良い案がでましたら事務局にご連絡いただければと思います。

そうしましたら、そろそろ時間ですので、今日の議題については予定通り進めさせていただいたところでありがとうございます。

それでは、事務局に進行を戻します。

【川崎市：辻係長】

本日は、御審議ありがとうございました。

本日の議事録（案）を作成次第、委員の皆さまにメールでお送り致しますので、内容の御確認をお願いします。その際に基本目標のアイデアがございましたらご意見いただければと思います。

今回御審議いただいた内容を 7/28 に開催予定の令和 7 年度第 1 回農業振興計画推進委員会にて諮ってまいります。

次回の本部会は 9 月上旬頃を見込んでおります。後日、委員の方々に御都合をお伺いいたします。

以上をもちまして「令和 7 年度第 1 回川崎市農業振興計画推進委員会 次期農業振興計画策定部会」を閉会といたします。皆様ありがとうございました。